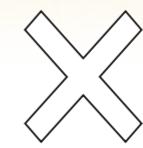


## 新春対談2026

未来へつなぐ新たな銅像の2人  
渋沢栄一翁と渋沢敬三先生を語る深谷市長  
**小島進**成城大学学長  
**杉本義行**

深谷市では、『青淵渋沢栄一先生像』『祭魚洞渋沢敬三先生像』の銅像を青森県の株式会社三沢奥入瀬観光開発から寄附を受け、渋沢栄一銅像を市役所本庁舎西側市民広場に、渋沢敬三銅像を旧渋沢邸『中の家』正門南側に移設しました。

今回は、銅像を建立した杉本行雄氏のご子息である成城大学の杉本義行学長を対談相手に迎え、銅像が深谷に移設された意義や渋沢栄一翁、栄一翁の孫で、渋沢家の後継者となった渋沢敬三先生について語り合いました。



渋沢愛を引き継ぎ、広めていくのは、  
私の使命です。

**渋沢栄一銅像と渋沢敬三銅像  
移設に込めた思い**

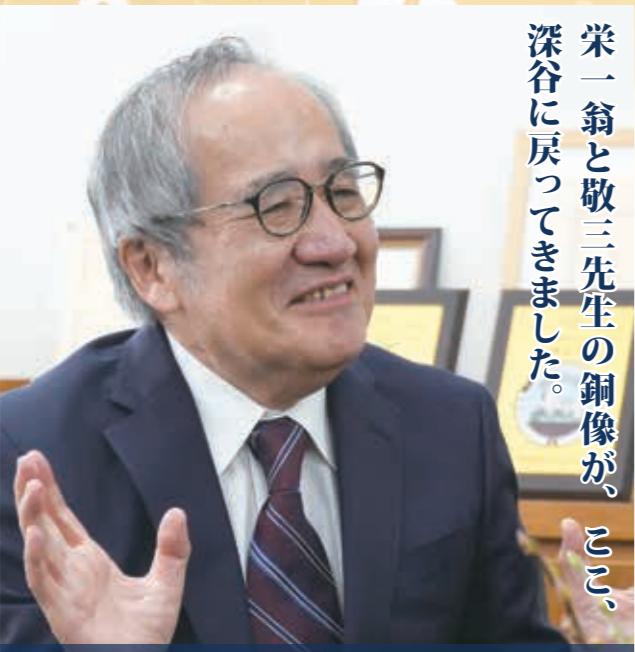
小島市長 今日は深谷へお越し  
ただき、ありがとうございます。  
杉本学長は初めて深谷に来たと思  
いますが、来てみたいかがですか。  
杉本学長 駅から降りてみると、  
今日はすくすく良い天気で、遠くに  
山が見えたり、素晴らしい環境  
だなと思いました。

小島市長 ありがとうございます。  
以前、市議会で講演をしていた頃、  
青森県の古牧温泉に何回も行かせて  
いただきました。そのとき、お父様の  
杉本行雄社長が、古牧温泉のことや小川原湖民俗博物館のこと  
なども、いろいろ説明してくれたのを覚えていて。やっぱりす  
ごいかだったのですね。

杉本学長 ありがとうございます。  
小島市長 杉本学長 栄一翁の銅像  
と敬三先生の銅像が深谷市に移設さ  
れましたが、率直な感想を教えてく  
ださい。

杉本学長 栄一翁が生まれ育ち、そ  
の精神の原点となつたこの地に立  
つ、栄一翁の銅像と敬三先生の銅像  
の姿を見て、ふさわしい場所に戻つ  
てきたと心底感じています。

この銅像は、青森の地で30年にわ  
たり、渋沢家の理念を語り続けてき  
ました。これからは深谷の地で、新  
しい世代に、道徳と経済の両立、そ



杉本義行（成城大学学長）

1955年生まれ（70歳）、青森県出身  
父親は渋沢栄一銅像・渋沢敬三銅像を建立した  
杉本行雄氏。2022年4月に成城大学学長に就  
任。専門分野は食料経済学、応用ミクロ経済学。

栄一翁と敬三先生の銅像が、ここ、  
深谷に戻つてきました。

して地域への貢献という、栄一翁と  
敬三先生の精神を語り続けていくこ  
とを願っています。父が生涯をかけ  
て守り、伝えようとした栄一翁と敬  
三先生の理念が、深谷の地で新たな  
命を吹き込まれ、継承されるとを  
心よりうれしく思います。

小島市長 ありがとうございます。  
私は、お父様がそれだけ栄一翁  
敬三先生を敬愛していて、心底ほ  
れ込んでいた熱さ、熱意、情熱を  
失礼かもしないし身勝手かもし  
れないけれど、お父様の渋沢愛を  
引き継がないといけないと思って  
います。

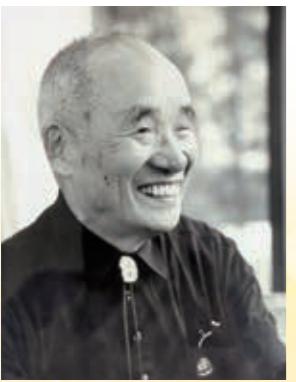
小島市長 栄一翁とお父様のエピ  
ソードなどを教えてください。  
杉本学長 父が栄一翁の書生にな  
なったのは、栄一翁が亡くなる約  
3年前の最晩年の頃でした。そこ  
で書生になつたのは、それは素晴  
らしい縁、最高の運だと思いま  
す。一生であれほどの仕事を成し  
遂げる人はいないと思うので、短  
い間でしたが、大変な影響を受け、  
3年間以上の価値がある、中身の  
濃い3年間だたと思います。

小島市長 初めてお父様にお会い  
して、その後、本も読ませてもら  
りました。後に『北の観光王』  
になり、あれだけ事業を大きくし  
ていったというのは、たかが3年  
間かもしれないけれど、栄一翁と  
関わったことで、お父様が学んだ  
ものは大きかつたのだうなと思  
います。

杉本学長 そうだと思います。

**敬三先生が導いた  
東北の観光事業**

小島市長 敬三先生とお父様の工  
ピソードは何か聞いていますか。  
杉本学長 父の観光事業の特徴は、  
敬三先生の理念の影響を強く受け  
いました。観光とは、『光を觀る』す  
なわち、その土地の素晴らしいもの、  
それが光で、それを觀ることである、



画像提供：個人所蔵

**渋沢栄一翁と渋沢敬三先生に仕えた『北の観光王』杉本行雄氏**

△1914（大正3）年～2003（平成15）年

杉本行雄氏は、渋沢栄一の書生、渋沢敬三の秘書、そして渋沢家の執事を務めました。戦後は敬三の命により『三木木渋沢農場』の事業清算のため家族で青森県に移住し、三木木商工會議所会頭や十和田観光電鉄社長として地域経済の発展に尽力しました。また、十和田科学博物館や小川原湖民俗博物館を開館しました。その後は、現在の青森県三沢市古間木で温泉掘削に成功し『古牧温泉』と命名、三田綱町（東京都港区）の旧渋沢邸を移築して青淵渋沢栄一先生像と祭魚洞渋沢敬三先生像を建立し、『渋沢公園・祭魚洞庭園』を整備しました。東北の観光拠点を築いた『北の観光王』と称され、質素で親しみある人柄は、地域の人々に深く愛されました。

# 成城大学

所在地：東京都世田谷区成城 6-1-20

設立：1950年

学部：経済学部、文艺学部、法学部、  
社会イノベーション学部

緑豊かな世田谷のキャンパスでの少人数教育とゼミを中心に、個性を尊重する自由でアットホームな校風が魅力です。

この問題でいえば、社会のため、世のために人のために行きつまむよな。  
**杉本学長** 例えば生成Aーは、課題を聞くとそれなりに答えてくれますよね。問題なのは、何を問うのか、何を課題とするのか、といふところが当然大切です。おやじ、栄一様や敬三先生につながつて、このいはなつかと聯んでおる。

語りあわせし私は物語ります。  
**栄一翁と敬三先生の精神を  
受け継ぐこれからへの教育**

## 榮一翁と敬三先生の精神を受け継ぐこれからの教育

「何のためな」ひとつ血筋か 並  
よへに社会に結びついたが、とい  
うところが大切だと思ひます。最  
近「高校生」でもソーシャルな都  
方に関心を持つ人が多くなってき  
ていて、時代がそりこりといふに  
向いてきている気がします。単に  
利益を追求するのではなく、そ  
れが「何のためなのか」というと  
ころを自分の問いつらうが、私が考  
る柴一翁や敬三先生の教えにつな  
がつてこののだと思つてます。

**小島市長** 教育もただ教えるので  
はない、一番の元 根っこの部分で  
すね。

榮一翁や敬三先生の考え方や精神を広めるためには

小島市長 一番大切なのは、教育の  
中で深一線や敬二先生のよしながいが  
どのよに生かしこそのかだと  
感じます。深谷市では、圖説本を活  
用して、オンラインで深一線のカリ  
スマ校や中学校ひとつながら、こ  
んな交流や連携をつけています。

---

堀一翁や敬二先生の考え方や  
精神を広めるためには

---

小島市長 最後に、堀一翁や敬二  
先生の理念をじいしたい身近に感  
じてもらおうかね。

杉本学長 これから一歩をはしめ、  
ノクノロジーが急速に進歩してい  
ります。その一方で、それを吸収

止める人間がいます。ナクソロジーが人間や社会にどうして、どのような影響を及ぼすのか。仮に個の影響があるなら、それを小さくするにはどうしたらよいか。これらはたゞ問い合わせに、ある程度の確信をもつて答える学問分野は多くはありません。本学においても、そういう分野を広げてほしい必要があると私は考へています。おやじ、堀一翁の『諺語と算盤』や敬三先生の考へ方が、今の時代に必要なのでは

人たちに分かってからでした。敬三先生のすゝめを今の人たちに  
「この人が此處に立せよとの  
か考へて、市民の方々に敬三先生の靈廟や、世の中に立せよ  
を伝えるのは、私の使命だと感じて  
います。銅像移設を機に関係が持て  
ましたので、これからも、ぜひよろ  
しくお願ひします。今日はありがとうございました。」  
とおもつた。

杉本学長 これからもよろしくお願ひ

小島市長 一番大切なのは、教育の  
方に采一翁や敬三先生のような著述家  
のよみに生かしていくのかだと  
感じます。深谷市では、圖説本を活  
用して、オンラインで采一翁のカリ  
エの小学校や中学校とのながら、こど  
もたちの父孫や学齢をしておきます。

人たちに分かってからでした。敬三先生のすゝめを今の人たちに  
「この人が此處に立せよとの  
か考へて、市民の方々に敬三先生の靈廟や、世の中に立せよ  
を伝えるのは、私の使命だと感じて  
います。銅像移設を機に関係が持て  
ましたので、これからも、ぜひよろ  
しくお願ひします。今日はありがとうございました。」  
とおもつた。



▲旧渋沢邸「中の家」に移設された敬三先生の銅像を訪れた様子

といつ敬二先生の言葉を実践しました。残念ながら現在は営業していませんが、三沢には小川原湖民俗博物館を、十和田湖には十和田科学博物館を造り、その後修学旅行生たちが休める宿泊施設も造りました。普通だと先に宿泊施設を造るといつですが、まず先に博物館を造るといつ発想は、敬二先生のアドバイスや教えなのでしょうね。

なる、人に喜んでもらいたいことが  
先だつたのだと感じます。最初だつ  
たる金儲けが先で、宿泊施設を造  
り、人を呼ぶにはどうしたらよこ  
かと想えますよね。話を聞いてい  
て、逆だなと思いました。先に博物  
館を造つたのは、間違ひなく赤  
字ですよ。そこから始めたところ  
のが、敬三先生の『繪語と算盤』  
なのだと感じました。

杉本学長 父は54年前、『いの増  
に温泉は出ない』といつて意識に挑  
戦し、1000メートル掘つて古  
牧温泉を掘つ当しました。そして  
敷地内に渋沢邸を移築し、第一翁  
の銅像と敬三先生の銅像、渋沢神  
社を建立し、敬三先生の雅号であ  
る祭魚洞を付けた、広大な『渋沢  
公園・祭魚洞庭園』を整備しまし  
た。これは単なる恩返しだではなく、  
渋沢公園・祭魚洞庭園を完成させ  
た。敬三先生の理念を再現する空間を

澁沢栄一の孫で澁沢家を継いだ偉人 澁沢敬三

◇1896(明治29)年～1963(昭和38)年

渋沢敬三(雅号:祭魚洞)は、渋沢栄一の孫で、17歳の時に栄一から跡継ぎに指名され事業を継承しました。栄一が帰郷の際は同行し、旧渋沢邸『中の家』をたびたび訪れています。東京帝国大学卒業後は第一銀行などを経て、日本銀行総裁、大蔵大臣(現在の財務大臣)を務めました。戦後、財閥解体や財産税導入の際は、渋沢家は対象外だったにもかかわらず渋沢家も対象とし、また、三田綱町の邸宅を国に物納し、「ニコニコしながら没落していくばいい。いざとなったら元の深谷の百姓に戻ればいい。」と語ったといいます。一方で、民俗学などを研究して文化活動に尽力し、学術団体や研究者も支援したほか、『渋沢栄一伝記資料』(全68巻)を編纂<sup>へんさん</sup>・発行し、栄一の功績を広く世に伝えました。

